

一般社団法人日本鉱物科学会  
平成29年度第2回定例理事会 議事録

【1】招集通知年月日：平成30年(2018年)4月18日(水)

【2】開催年月日及び時刻：平成30年(2018年)5月19日(土)  
16時15分～19時20分

【3】開催場所：東京大学理学部1号館西棟1階105室  
〒113-8654 文京区本郷7-3-1

【4】理事総数および定足数：総数 32名 定足数 17名

【5】出席理事数：25名

土山 明, 榎並正樹, 安東淳一, 大和田正明, 河上哲生,  
(ZOOM)  
川本竜彦, 永井隆哉, 伴 雅雄, 三河内岳, 宮脇律郎,  
(ZOOM)  
吉朝 朗, 井上 徹, 黒澤正紀, 小暮敏博, 下林典正,  
高澤栄一, 長瀬敏郎, 中村美千彦, 大藤弘明, 鍵 裕之,  
貴治康夫, 佐藤 努, 濱本拓志, 平島崇男, 森下知晃  
(ZOOM)

【6】欠席理事数：7名

鈴木正哉, 阿部なつ江, 上原誠一郎, 土谷信高, 角替敏昭,  
永島真理子, 宮島 宏

【7】出席監事：小山内康人

【8】オブザーバー：(幹事, 各委員長, 報告者)

出席：片山郁夫Elements幹事, 栗林貴弘会計幹事,  
大谷栄治連絡担当委員, 坂巻竜也選挙管理委員会委員  
欠席：奥山康子教育普及委員会委員長,  
坂野靖行博物館委員会委員長,  
松原 聡櫻井賞選考委員会委員長,  
土屋範芳研究部会「岩石-水相互作用」代表者

【9】議事概要

定足数17名を超える25名の理事が出席し, 定款30条により理事会が成立したことを確認した。  
土山会長が議長に選出された後, 土山議長は一部参加者がWEB会議システム(ZOOM Meeting)を利用することから, WEB会議システムの通信状況(出席者全員の音声と映像が即時に伝わり, 適時的確な意見表明が互いに行える状況)に問題がないことを確認し, 平成29年度第2回定例理事会を開始した。  
まず初めに, 会議に先立ち, 土山会長より書記として三河内 岳理事が推薦され, 満場一致で承認された。

#### 1. 報告事項

##### 1. 会長・副会長の職務執行報告 (土山会長, 榎並副会長)

各業務は各担当者に一任していることから, 会長, 副会長から個別の報告は特にないので, 以下の順に沿って, 各担当者に報告いただいた。

##### 2. 会員報告 (佐藤会員幹事・理事)

佐藤会員幹事により以下の通り, 平成29年度第1回定例理事会(2017年9月12日)以降の会員動静の報告がなされた。物故会員2名(永年会員2名), 退会者20名(内訳: シニア会員 4名, 一般会員6名, 学生会員10名), 賛助会員退会(1件)であった。なお, 退会希

望者で会費未納がある場合は紹介者を通して納入をお願いすることとなった。また, 第1回定例理事会(2017年9月12日)で「会員資格の喪失」対象者としてリストアップされた2年会費未納者12名の内11名について, その後の督促にも拘わらず会費の支払い, 会員継続の連絡がないため, 会員資格の喪失対象者と決定した。なお, 「会員資格の喪失」については, 「定款(会員資格の喪失)10条 会員は, 次のいずれかに該当するに至ったときは, その資格を喪失する。(3) 第7条の年会費の支払義務を2年以上履行しなかったとき。」に規定している事も合わせて説明があった。2018年5月15日現在の会員数総数は894名(内訳一般会員604名, シニア会員171名, 学生会員69名, 永年会員33名, 名誉会員17名)で2017年9月12日の定時総会後より18名減少となった。

#### 3. 広報報告 (伴広報幹事・理事)

伴広報幹事により, 広報活動について以下の通り報告がなされた。(1) 広報委員会委員の主な役割の分担は昨年と同様: 橋委員: 将来計画委員会との連絡, 門馬委員: ホームページ, 亀井委員と奥村委員: 学会でのブースである。学会のTwitter管理は奥村委員, Facebookは伴。(2) 会員へのML送信を実施した(2018年は現在までに9件)。内容は, 学会事務連絡, 公募案内, 関連学会案内など。(3) 各賞受賞者へ受賞写真などを送付した。(4) 連合大会の日本鉱物科学会ブース展示対応を行った。1. 学会誌GKK, JMPSの紹介と配布, 年会, 表彰, 入会案内, 2. 学会会員執筆書籍の展示・紹介, 3. 学会員に配布されているElementsの紹介と配布, 4. 「一家に1枚: 鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスターの紹介と配布, 5. 寄贈試料の展示。(5) 地学オリンピックでの「一家に1枚: 鉱物-地球と宇宙の宝物」ポスター配布など。

#### 4. 渉外報告 (川本渉外幹事・理事)

川本渉外幹事により, 渉外活動について以下の通り報告がなされた。昨年まで31冊ご寄贈いただいたが, 今年もJpGU大会への展示用に2018年5月9日に寄贈募集アナウンスをしたが, 今年度のJpGUには新規の寄贈図書がなかった。

#### 5. 和文誌編集報告 (長瀬和文誌幹事・理事)

長瀬和文誌幹事により, GKKの編集状況について以下の通り報告がなされた。

1. 報告事項: 1) 平成30年5月18日現在, 岩石鉱物科学46巻3号, 4号, 47巻1号の合計3号が発行された。掲載件数頁数は原著論文3件45p, 総説1件10p, 資料・解説5件50p, 新刊紹介2件1p, ニュース(他学会案内, 公募等)0.5p, 投稿規定3p, 学会記事(理事・総会議事録)31.5p, その他の記事8p, 総目次2p, 広告3件1.5p, 白頁1.5p, 3号分合計頁154p, 1号平均頁51p。2) 印刷状況: 47巻2号掲載論文2; 印刷準備原著1, 印刷中資料解説1, 3) 現在査読中論文: 1編。投稿手続中: 1編。
2. 編集委員会メール審議報告: 2018年4月26日のメールアンケート実施の報告がなされた。昨年2017年9月13日のGKK編集委員会での話題となった掲載論文不足解消の一案として年会巡検報告書と会員依頼原稿を進めるために以下の2点が提案され, 委員会では承認された。(議案1) 編集規定がなかったフィールド(年会での野外巡検の記事を前提としている)紹介の記事の扱いの提案について。提案内容: 1) 本文の体裁は, 「原著論文, 短報, 総説, 解説・資料, 鉱物の分析・解析のコツと勘どころ, 最近の研究から, 討論」に準ずる。2) 原稿の掲載頁制限は「d. 解説・資料」に準じ, 8頁以内とする。3) 査読の有無とレフェリー数は「鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ, 最近の研究から」に準ずる。(議案2) 会員依頼原稿のページチャージ負担なしの件。提案理由: GKKの依頼原稿については著者が会員の場合にはページチャージを負担していただいているこのような状況では原稿を依頼する際に, 著者への負担を同時にお願いしなければならないため, 原稿を依頼しにく

い状況にあります。依頼原稿を含めて原稿を多く集める方が必要な状況です。この一つの方策としてとして会員依頼原稿のページチャージ負担なしとすることを提案された。上記メール審議の結果については本日の理事会へ議案として提案されている。(後記審議事項参照)

3. 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件: JMPSと同様にすることで意見がまとまり、これについても後記の本理事会審議事項で審議される。

## 6. 英文誌編集報告(平島英文誌幹事・理事)

平島英文誌幹事により、JMPSの編集状況について以下の通り報告がなされた。

平成30年5月19日(土)13:00~13:45に東京大学理学部1号館西棟1階105室にて2018年第1回JMPS編集委員会を開催したことが報告された。

1. 報告事項: 1) JMPS状況報告: 112巻3号(6月)~113巻2号(4月)計6号が発行された。掲載件数頁数は後記の通り。Review 7件75p, Articles 23件246p, Letters 9件44p, Editorial 1p, 投稿規程5p, Index 4p, Contents 4p, 白頁1p, 6号分合計頁380p, 1号平均頁63p。2)今後の発行予定: 113巻3号(6月号)(印刷準備5編), 4号(8月号)(印刷準備3編)現在の編集状況: 査読中:9編, 返却中:5編。3)2016 JMPS Impact Factorは0.409である。4)2018連合大会講演を対象にLetterを募集中: 投稿申込締切日: 2018年6月11日(月) 締切日厳守, 原稿提出締切日: 2018年7月17日(火) 締切日厳守: Letter企画の対応再確認: 時宜に合った話題の迅速な掲載や, 興味深いデータをコンパクトに提供するという, Lettersの目的にそった原稿の投稿。Letters原稿の長さなど: 原則刷上り4頁以内, 最大6頁以内, 極力WEBサイトへのdepositは避けること。depositが多い場合はOriginal Articleへ変更する場合もある。JpGU講演発表はもとより, 年会発表講演Letter投稿も激減していること, IFの年々の引用減, 投稿システム最低年間50編の投稿必要とのことから, 理事会出席者へ投稿のお願いをした。
2. 審議事項: 1) 編集委員長・編集委員の交代について審議がなされ, 編集委員会は次期編集幹事を次期会長に推薦する予定であること, 委員の交代は編集委員会の了承が必要であることが確認された。2) 冊子体はモノクロで電子ジャーナルをカラーにする件はGKKと同様にするので, 後記の本理事会審議事項で審議される。3) JMPS学生論文審査結果報告は以下の通りで, 後記の本理事会で審議される。第5回対象論文: Detrital zircon provenances for metamorphic rocks from southern Sor Rondane Mountains, East Antarctica: A new report of Archean to Mesoproterozoic zircons. 学生会員著者: 北野一平。第6回対象論文: Cation ordering of {110} and {211} sectors in grandite garnet from Mali. 学生会員著者: 中村友梨江。4) プレプリントサーバー対応の件: (1) Case: Dr. Satsish found No. 171222's full text of the manuscript has been published as early as in October 2017, in "Preprints.org" <https://www.preprints.org/manuscript/201710.0193/v1>. The manuscript should be rejected because it was already published online and the whole text and figures are available in the internet. It is a violation of copyright if we publish it as such (there will be revisions though). "Preprint": this is a non-peer reviewed article and revisions are accepted in any time, which is a new style of a publication, such as a Wikipedia in the field of scientific community. Result: We are unable to proceed forward with your manuscript for publication. The reason for it is that an exact same manuscript is available in the internet. The editorial policy of the Journal of Mineralogical and Petrological Sciences clearly says that "Submitted papers must not have been published previously in any language,..." The editorial board had a discussion on this aspect and has unanimously decided that a manuscript already published in the internet will not be considered for publication in JMPS. This indeed is an issue relating to the copyright of a full manuscript or even a part of the manuscript such as figures and data tables. In this case "exactly the same text, figures and data is available in the internet"

and we are unable to consider the same manuscript for publication.

(2) 2018年3月22日にJpGUから、AGU主体のプレプリントサーバーを運用した場合、JMPSはどう対応するかという事前調査があった。上記Dr. Satish委員の説明を受けて、JMPS投稿規定では「Submitted papers must not have been published previously in any language,...」と規定されているので、JMPS投稿予定者がAGU主体のプレプリントサーバーにJMPS投稿予定論文を公開してしまったら公開論文となるため、JMPSの現状では投稿違反で投稿受付はできないことになるという理解で一致し、AGUも含め他のプレプリントサーバーに公開された論文がJMPSに投稿された場合、プレプリントサーバー搭載を削除しない限り、投稿受付をしないこととなった。5) 機関リポジトリ(特に大学図書館)の件。最近JMPS投稿論文を大学附属図書館へリポジトリする依頼があるが、当学会は当初から、機関リポジトリとして保存格納許可を認めない学会で、当該大学図書館サーバーへのダウンロード論文を格納するのではなく、J-Stageの論文サイトにリンクして閲覧することを原則としているが、ここ数年は以下のリポジトリ定義「機関リポジトリとは: 研究機関の研究成果としての知的生産物を収集・公開・保存するインターネット上に設けられた保存書庫で.....」に従い厳密にリポジトリを実施する大学機関が多くなり、ダウンロードしたファイルの使用許可の申請がなされている。委員間の意見交換の後、機関リポジトリについても現状のまま、大学図書館サーバーへのダウンロード論文を格納することを許可しないで、各機関からJ-Stageに公開されている論文にリンクして論文を閲覧してもらうこととなった。6) その他 (1) U-05: 「地球惑星科学における学術出版の将来」セッション [5/22 (火) 9:00~12:15]のポスターセッションにJMPSのポスター出展報告: JpGUより、今まで「日本地球惑星科学連合ロゴ掲載についての覚え書き」を取り交わしている関係学会発行ジャーナル紹介コーナーを設置してきたが、JpGU2018ではジャーナルのポスター発表紹介の検討旨依頼があり、会長、副会長、JMPS委員長ら、JpGU連絡委員、庶務との間で協議した結果、ポスターを出展することになり、展示するポスターの紹介があった。(2)最後に、以前からJMPS電子ジャーナルPDF閲覧者から要望のあったPDFファイルの文書コピーセキュリティ設定が解除されたことが報告された。

## 7. 庶務報告(中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事により、平成29年度第1回定例理事会(2017年9月12日)以降の庶務業務について以下の様に報告がなされた。1) 平成28年度定時総会開催, 総会招集通知資料発送, 総会議事録作成確認 2) 第1回, 第2回定例理事会開催関連, 会場準備, ZOOM会議準備, 各議事録作成確認 3) 連合への対応 3) 後援, 共催, 協賛 4) 会員への連絡, 学会誌発送 5) 平成30年度日本学術振興会賞, 育志賞受賞候補者募集のアンナウンスその他。

## 8. 行事・年会報告

(黒澤行事幹事・理事, 伴2018年LOC委員長代理・理事) 黒澤行事幹事と伴2018年LOC委員長により以下の通り報告がなされた。

1. 日本地球惑星科学連合2018年大会: 日程: 2018年5月20日(日)~5月24日(木) 会場: 幕張メッセ国際会議場
2. 日本鉱物科学会2018年年会・総会: 日程: 2018年9月19日(水)~21日(木) 会場: 山形大学小白川キャンパス基盤教育1, 2号館 〒990-8650 山形市小白川町1-4-12, 現在はPDFファイルで年会案内を公開中, 6月初めには年会HP作成公開予定。(1) 例年とは異なる予定として 9月19日(水)17:00~市内ツアー ② 9月22日(土)9:00~16:15蔵王温泉・蔵王山巡検: 山形県山形市, 上市市, 宮城県蔵王町 ③ 9月22日(土)13:00~ゆうキャンパス・ステーション(山形駅前)日本鉱物科学会一般普及講演「日本の国石・ひすい」の企画があること, その他, 会期期間中, 山形大学附属博物館において, 特別展示として, 「日本の国石・ひすい」を開



催の報告があった。なお、演申込み期間：2018年6月25日(月)9:00～7月17日(火)20:00まで（WEBサイト利用）である。

#### 9. Elements報告（片山Elements幹事）

片山Elements幹事により、Elements 2018年掲載原稿について以下の通り報告がなされた。

以下の記事をJAMS Society Newsとして編集し、Elementsに投稿した。JAMSは1年間に6号で毎号1頁を目安に記事を作成している。なお、誌面に余裕があるので、取り上げたい内容があればElements委員長まで連絡をしてほしい。

No. 1 (2月号): From the president (土山会長), Invitation to the JpGU Meeting JMPS Vol. 112, no. 6, December 2017. No. 2 (4月号): JBPP: Supercritical Geothermal Resources (土屋会員), JMPS Vol. 113, no. 1, February 2018. No. 3 (6月号): Oman Drilling Project (森下会員), JMPS Vol. 113, no. 2, April 2018. No. 4 (8月号): Discovery of new members of Atacamaite family (浜根会員), JMPS Vol. 113, no. 3, June 2018. No. 5 (10月号): (原稿締切 2018/8/2), JAMS Awardees, JMPS Vol. 113, no. 4, August 2018. No. 6 (12月号): (原稿締切 2018/10/4), JAMS Awardees, JMPS, Vol. 113, no. 5, October 2018.

#### 10. 平成29年度会計中間報告（栗林会計幹事）

栗林会計幹事により、日本鉱物科学会平成29年度会計中間報告(平成29年9月1日～平成30年5月18日)について、以下の通り報告がなされた。ほぼ例年通りの推移であるが、特に収入で会費請求通知しているにもかかわらず、学会費の納入が遅れている。また、過去10年間の収支推移についての検討結果が報告され、会員減少により会費収入が徐々に減っていること、特に2016～2017で著しく減少、2011～2012に大きな変化-科研費助成終了、Elements講読開始、年会会計の一般会計への繰り入れ、会費値上げなど-があった。その後も支出については事務局経費までも減らしたが、財政事情は良くはなっていない。基金についても減少しており(30万円くらいずつ毎年減少)今後対応策を考える必要がある。例えば、Elements購読費用をすべて学会で負担にしているが今後どうするか、会費徴収について自動引き落とし利用者は約30%であるが徴収方法の検討、収入を新しくどう増やすかなど、問題点が紹介された。

#### 11. 2017年年会会計決算報告（栗林会計幹事）

栗林会計幹事により、2017年年会(愛媛大学)会計決算について以下の通り報告がなされた。2017年年会から冊子のアブストラクト集を印刷しないで、年会のためのプログラム編成などの運用サイト利用を始めたが、費用はほぼ同額に抑えられた。また、愛媛大学LOCのご尽力により松山市より59万円の助成金を得ることができ黒字となった。なお、法人化後は年会会計決算も7月の決算に合算され8月に監査を受け、総会の承認を受けることになるので、今回は報告のみとする。

#### 12. 将来企画委員会報告（榎並委員長・理事）

榎並将来企画委員長により、平成30年5月19日13:45～14:35に東京大学理学部1号館西棟1階105室にて開催された将来企画委員会での以下諮問案件についての審議結果が報告された。

- 1) 外部団体からの受賞候補者推薦依頼への対応について、特に育志賞については、時間をとって推薦依頼をすること、特に指導教員からの積極的な推薦をしてもらうこととなった。
- 2) 科研費審査制度の大幅変更に関して、このことで学会に影響がなかったのかどうか情報収集を行うこととなった。また、審査委員に如何にアピールするかが重要であるとの意見もあった。
- 3) 会員数増のため学会としての対応について、入会のメリットは何かなど、検討すべき。

- 4) 会員会費規定の変更案を含めたアンケート実施について、実施する予定で、本理事会に提案する。

#### 13. 特務幹事(細則等検討担当)報告（大和田特務幹事・理事）

大和田細則等検討担当から、下記(1)と(2)の検討内容について、細則等検討委員会で検討すべきかどうか今後理事会審議していただきたく、本理事会審議事項に提案していることが報告された。(1) 次期に向けて役員選出内規改定 (2) 慣例のWG設置などの規約化

#### 14. 特務幹事(会員増対策担当)、会員区分等検討WG報告（吉朝特務幹事・理事、佐藤会員幹事・理事）

佐藤会員幹事から、2018年5月7日15:00～16:30にZOOM会議で行われた第3回会員区分等検討WG委員会の報告があった。これまで当委員会は3回ZOOM会議を実施してきている。出席者は土山会長、榎並副会長、吉朝特務幹事（会員増対策担当）、佐藤会員幹事、大和田正明特務幹事（細則等検討担当）、中村庶務幹事、栗林会計幹事、浜田委員、小山内前会長で、欠席は貴治委員であった。

##### 1. 会員会費規定の変更案について：

シニア会員のElements受領についての短期的な改訂案について事前にメールで佐藤会員幹事から送付されていた以下の会員会費規定の変更案の審議を行った。

##### 会員会費規定第5条変更案

変更前（年会費）

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

##### (1) 電子版及び冊子版を購読する会員：

一般会員10,000円、学生会員5,000円、

シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円

##### (2) 電子版のみを購読する会員：

一般会員9,000円、学生会員4,000円、

シニア会員7,000円、名誉会員・永年会員：無料

##### (3) 賛助会員：1口20,000円

変更後（年会費）

第5条 本会の会員は、会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

##### (1) 電子版及び冊子版を購読する会員：

一般会員10,000円、学生会員5,000円、

シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円

##### (2) 電子版のみを購読する会員：

一般会員9,000円、学生会員4,000円、

シニア会員7,000円、名誉会員・永年会員：無料

##### (3) 賛助会員：1口20,000円

2 シニア会員は、申し出によって、本規定第3条(1)の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。その場合のシニア会員の会費は、第5条(1)電子版及び冊子版を購読するシニア会員は6,000円、(2)電子版のみを購読するシニア会員は5,000円となる。

これを、会員会費規定の変更ではなく、新規に内規等を作成して対応しようという意見も出た。しかし、これは、定款第3条「総会において別に定める年会費を支払わなければならない。」と、年会費は総会が定める旨記載されているので、どの場合でも総会決議になってしまうため、内規等で対応することができないことが判明した。また、会員会費規定第7条「(改廃)第7条 この規程の改廃は、第5条については総会の決議により、…」と第5条の改廃には総会の普通決議が必要になってしまうので、審議の結果、学会の顧問先に問い合わせれば、次回総会に提案する方向で2018年5月19日に開催される第2回定例理事会に諮ることとした。但し、本改訂案の適応は、2019年6月までシニア会員の申し

出を確認するため平成31年度の会費徴収からとなる。

## 2. 会員区分の変更について:

長期の改訂案としての、前回までの議論の中で出た、高校生会員やいわゆる「マニア会員」等も含めた会員区分の変更に関しては、以下に示すアンケート等の結果も踏まえて、今後一年間議論して、可能であれば来年の総会に定款第5条あるいは会員会費規定第2条の変更を提案して決議していただく方向で進めていく。但し、定款第5条の変更は定款特別決議(会員約600人以上の賛成)になることに注意。

## 3. 会員会費規定の変更に関するアンケートの実施について:

上記会員規定変更の際にアンケートを実施しようという提案であったが、それだけを会員にお問い合わせするアンケートではもったいないのではないかという意見が出た。せっかくであれば今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス、雑誌等も含めて、会長から各委員会やWGに問い合わせして、それらを含めたアンケートを実施することを2018年5月19日の第2回定例理事会に諮ることとした。

## 4. 今後の会員数増のための議論: 今回提案するシニア会員の割引制度は、短期的な会員数減に対応するための方策であって、

鉱物学会をもっと魅力ある学会にして会員増につなげるための方策ではない。これには会員区分の検討の他に、今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス等、今後の学会の将来問題とも大きく関係する事なので、会員区分検討WGと将来問題検討委員会が十分連携して議論していくこととなった。その中でも、鉱物学・岩石学の方針が関係する科研費の区分が変更になって採択率が減少しているようなことも考えられるので、その辺も将来問題検討委員会と合同で1年位を目指して議論する必要があるという指摘があった。

## 15. 地惑連合報告(大谷連絡担当委員)

大谷地惑連合連絡担当委員から以下の通り報告がなされた。

・定時社員総会5月22日15:30~16:30, 学協会長会議 5月22日12:30~13:30。・2017Joint meeting セッション253(国際153); 5645(口頭2867/ポスター2778)。・ジャーナルPEPS: Impact factorがつく。IP=2.5:3以上をめざす。1/3がreview。・JSPSのジャーナル支援の申請: 通らなかつた。EPS, GJなど多くの申請が通らず。・外国学協会との連携: AGUとジョイント, EGU, AOGSとのジョイントセッション。・国際地学オリンピックフランス大会(2017年8月22~29日)支援, 29か国108名参加: 金2, 銀2, 国別順位2位(台湾と同列)今年は8月8日~17日にタイ。・代議員選挙: 150名がきまる。宇宙23, 大気水圏30, 地球人間18, 固体50, 地球生命13, 総合16名。・セッションプレジデントの選挙: 任期2018.6.1~2020.5.31。・理事選挙: 理事候補者20名, 幹事候補3名。・正会員8184, 準会員956。・フェロー審査(毎年), 西田賞審査(隔年), 三宅賞(隔年)。・JPGUの事務局員の雇用について, 就業規則を決める。退職金規則, 定年・再雇用規則, 退職金の積み立て, フレックスタイム制の導入。・補正予算の支出節約: 科研費が0円になった。2017年の黒字分を考慮すると正味の赤字は減るが5~10%を目安に節約依頼。

## 16. 学術会議報告(大谷学術会議連携会員)

大谷学術会議連携会員から以下の通り報告がなされた。

・24期学術会議の体制が発足した。地球惑星科学委員会(委員長藤井良一: 会員6名; 連携会員70名)のもとに, 企画分科会(藤井委員長, 他9名)と5分科会(地球惑星圏分科会(田近), 国際連携分科会(中村), 社会貢献分科会(高橋桂子), 地球人間圏分科会(春山), 人材育成分科会(木村)・国際連携分科会の改編: IMA分科会, INQUA分科会, COSPAR分科会の3分科会が小委員会(IMA小委員会)に改組: 分科会はIGU(春山), SCOR(山形), IUGG(中田), IUGS(北里)・夢ロードマップの改訂作業(JPGUとともに), 大型研究の大規模改訂(2020年度)の作業を開始: 3月28日にヒヤリングを実施: 13件の発表, 評価・助言を行う。・メルボルンIMA総

会への派遣の申請: 1名を申請中(5月末の幹事会で判断される)・メルボルンIMA総会について。総会派遣メンバーと総会出席者の確認: 総会はLOCにおいて, IMA期間中の中日(水曜日)で調整中。

## 17. 三鉱連絡会報告(中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事から, JpGU開催中の2018年5月20日昼に会長, 庶務幹事が参加予定で資源地質学会と連絡会を開催予定で, 今後の三鉱共通名簿のあり方や将来の年会共催について意見交換をする予定であることが報告された。

## 18. 各委員会委員選出報告(中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事から, 平成29年度各委員会, 各賞選考委員の投票結果について以下の通り報告がなされた。(選挙実施経緯) 理事による下記委員の選挙を平成29年10月以降実施することを平成29年度第1回定例理事会(2017年9月12日)にて承認を受け, 平成29年11月30日(木)締切で実施した。理事32名中, 投票者は25名であった。

### 1) 日本鉱物科学会賞選考委員会委員

(構成委員11名のうち, 1名は会長, 10名を選挙で選定)

(新)任期1年: 井上 徹, 大藤弘明, 大和田正明, 鍵 裕之, 川本竜彦(会長指名委員長), 小暮敏博, 佐藤 努, 中村美千彦, 平島崇男, 宮脇律郎, (会長)土山 明

### 2) 渡邊萬次郎賞選考委員会委員

(構成委員8名(うち2名は理事), 半数交代)

(新)任期2年委員4名選出:

大和田正明, 下林典正, 平島崇男, 宮脇律郎

継続委員4名:

上原誠一郎, 土谷信高, 宮島 宏(委員長), 吉朝 朗

### 3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会委員

(構成委員10名(内2名は理事) 半数交代)

(新)任期2年委員5名選出:

榎並正樹, 河上哲生, 川本竜彦, 高澤栄一, 三河内岳

継続委員5名: 阿部なつ江, 井上 徹, 中村美千彦(委員長),

永島真理子, 平島崇男

### 4) 日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会委員

(構成委員10名(内2名は理事), 半数交代)

(新)任期2年委員5名選出:

大藤弘明, 奥村 聡, 河上哲生, 森下知晃, 門馬綱一

継続委員5名: 井上 徹, 鍵 裕之, 黒澤正紀, 下林典正,

三河内岳(委員長)

### 5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会委員

(構成委員10名(うち2名は理事), 半数交代)

(新)任期2年委員5名選出:

佐藤 努, 長瀬敏郎, 宮脇律郎, 門馬綱一, 吉朝 朗

継続委員5名: 上原誠一郎, 黒澤正紀, 小暮敏博,

鈴木正哉(委員長), 永井隆哉

### 6) 次期会長・副会長推薦委員会委員(構成委員5名)

(新)任期1年:

大和田正明, 黒澤正紀, 中村美千彦, 永井隆哉, 平島崇男

## 19. 会長・副会長候補者推薦委員会報告(黒澤委員長・理事)

黒澤会長・副会長候補者推薦委員会委員長から, 当委員会の審議の結果, 本人の承諾を得て, 会長候補者として榎並正樹会員, 副会長候補者として宮脇律郎会員を選定し, 5月18日に選挙管理委員会に届けた事の報告がなされた。また役員選出内規では, 選挙実施年の4月20日まで届けることに規定されていますが, 会長副会長候補者推薦委員会での審議期間など考慮したスケジュール

に役員選出内規の変更をお願いしたい旨要望があった。

## 20. 選挙管理委員会報告(坂巻委員)

実施結果, 公示日変更, 投票開始日変更希望報告

坂巻選挙管理委員から, 以下の通り報告がなされた。

会長候補者として1名, 副会長候補者として1名, 理事候補者として39名, 監事候補者として1名の届出があり, 来週には公示予定。役員選出内規に沿って開始し, 投票日の3ヶ月前の選挙アナウンスには間に合ったが, 投票日から1ヶ月前に学会HPへ候補者氏名公示をすると現在の内規に従えば選挙期間が短くなる。今回のみ投票期間を延長するため役員選出内規の変更をお願いしたく, 黒澤理事から当理事会に議案として提案をした。

## 21. その他 委員会報告

### (1) 新鉱物・命名・分類委員会報告(宮脇委員長・理事)

特に報告はなかった。

### (2) 教育普及委員会報告(奥山委員長代理: 土山会長)

奥山教育普及委員会委員長代理で土山会長から以下の通り報告がなされた。

・今期もJpGU教育検討委員会にて他学会の初等・中等教育関連委員とともに活動した。具体的には, 1) 上記委員会内の小委員会で作成した高等学校「地学基礎」のカリキュラム具体案を, 検討資料として文科省に提出, 2) 検討中の高等学校学習指導要領案に対して, パブリックコメントの形で意見を提出。(これは理事会資料に入れなくても良いのですが, 現在版の高校「地学基礎」の履修率は約30%ということです。ご参考までに)・JpGU大会では, 20日(日)午後16時に教育検討委員会主催のセッション「G-05小・中・高校, 大学の地球惑星科学教育」が, また午前10時に委員会が関係するセッション「O-01 これからの高校における地球惑星科学教育」が開催されるのでぜひご参加くださいとの報告があった。

### (3) 博物館委員会報告(坂野委員長代理: 土山会長)

坂野博物館委員会委員長代理で土山会長から以下の通り報告がなされた。

故北川隆司会員(広島大学教授, 1949年~2009年)が収集した鉱物コレクションを2013年から2017年にかけて開催した巡回展について「北川隆司鉱物コレクション巡回展(2013年~2017年)の報告」としてまとめ, 現在, 岩石鉱物科学電子ジャーナルに早期公開されていることが報告された。

### (4) 「岩石-水相互作用」研究部会報告

(土屋代表代理: 河上理事(ZOOM))

土屋「岩石-水相互作用」研究部会代表代理で河上当部会世話役から以下の通り報告がなされた。

世話役 土屋範芳, 奥山康子, 藤本光一郎, 河上哲生  
2017年年会(愛媛大学)で実施したスペシャルセッション「岩石-水相互作用」の研究部会活動報告が以下の通りなされた。:「岩石-水相互作用」Water Rock Interaction: 趣旨と概要」本トピックセッションでは, 「岩石-水相互作用」に関わる分野横断的な研究発表, 情報交換を推進すべく, 「みず」をキーワードにして, 地殻流体のキャラクタリゼーション, 変成岩, 火成岩との反応プロセス, 熱水変質, 鉱床, 熱水実験, さらに流体の発生や移動プロセス, 地殻内での流体の存在形態など基礎理論と実験に関する講演を広く募集する。研究の方法も, 野外観察, 実験, 数値計算, モデリングなど多様な発表を期待し, 地球プロセスにおける「みず」の役割を学際的に検討する。あわせて, 除染の鉱物科学, 放射性廃棄物地層処分, 二酸化炭素の地層隔離, 島弧システムと地熱エネルギーなどの地下利用に関する講演も募集する。

### (5) 「鉱物・宝石の事典」刊行と「日本の国石」ひすい」

バラエティに富んだ鉱物の国(仮称)の報告(土山会長)  
土山会長から, これからレイアウトなどの作業にはいるので, それぞれ山形大学での年会までには刊行したいとの報告があった。

## 22. その他

### 2017年年会(愛媛大学)について実施した新しい試みに

ついての報告(土山会長, 井上2017年LOC委員長)

土山会長と井上2017年年会LOC委員長から以下の通り報告がなされた。

・プログラムプリントの件: 今回から講演要旨集冊子印刷がなくなり, PDFファイルでダウンロードすることになったが, 同様にダウンロードすることとなったプログラムpdfファイルについては, プリントして配付したほうが良いとの意見が多かった。実際, 愛媛大学スタッフのご協力でプログラムを小冊子プリント作成していただき参加者に配布することができ, 御礼申し上げます。今後も小冊子プリント作成を継続するよう是非お願いしたい。・クロージングセレモニーの件: 愛媛大学年会から実施したクロージングセレモニーは大変評判が良かった。今後, 次年度の年会案内, 受賞者不在にならないよう, 山形大学でのクロージングセレモニーに向けて, 更に検討をお願いしたい。

## 11. 審議事項

### 第1号議案 新入会員承認の件(佐藤幹事・理事)

佐藤会員幹事から一般会員1名, 賛助会員1社(記載省略)の入会申込書が閲覧され, 異議なく入会が承認された。また, 2017年8月12日第3回定例理事会で資格停止となっていた会員4名が未納会費を全納して停止が解除された事が報告され, 承認された。

### 第2号議案 会員会費規定の一部改定の件(佐藤会員幹事・理事)

佐藤会員幹事から報告事項で報告, 説明されたように, シニア会員のElements講読希望の有無よって会費を分け, 会員会費規定第5条に下記下線の箇所を第2項として新しく設定することについて提案があった。実施時期について, 会員会費規定第7条により, 年会費の改定は総会普通決議事項なので, 2018年9月20日の山形大学での総会に議案として提案, 審議されてからとなり, 総会で承認された場合, 実施は平成31年度(2019年8月1日)からとなる事が説明され, 審議の結果, 異議なく承認された。

### 会員会費規定第5条 変更後(年会費)

第5条 本会の会員は, 会員区分に応じ以下に定める年会費を納付しなければならない。

(1) 電子版及び冊子版を購読する会員:

一般会員10,000円、学生会員5,000円、

シニア会員8,000円、名誉会員及び永年会員1,000円

(2) 電子版のみを購読する会員:

一般会員9,000円、学生会員4,000円、

シニア会員7,000円、名誉会員・永年会員: 無料

(3) 賛助会員: 1口20,000円

2 シニア会員は, 申し出によって, 本規定第3条(1)の会誌等に含まれているElements冊子体の受領およびその電子ジャーナルアクセス権の付与を辞退することができる。その場合のシニア会員の会費は, 第5条(1)電子版及び冊子版を購読するシニア会員は6,000円、(2)電子版のみを購読するシニア会員は5,000円となる。

### 第3号議案 各賞選考委員会報告と審議(土山会長)



(1) 日本鉱物科学会賞選考委員会受賞候補者報告と審議  
(川本委員長・理事)

日本鉱物科学会賞選考委員会川本委員長から平成29年度日本鉱物科学会賞第18回受賞候補者として海野進会員,第19回受賞候補者として糺谷 浩会員が報告され,受賞者として異議なく承認された。

平成29年度日本鉱物科学会賞第18回受賞者氏名:海野 進会員  
受賞業績題目:無人岩質マグマの成因と海洋プレート生成・進化過程の研究

平成29年度日本鉱物科学会賞第19回受賞者氏名:糺谷 浩会員  
受賞業績題目:熱測定と分光学的手法によるマントル鉱物の熱力学的性質及び結晶構造に関する研究

(2) 渡邊萬次郎賞選考委員会受賞候補者報告と審議  
(宮島委員長・理事代理:下林副委員長・理事)

渡邊萬次郎賞選考委員会宮島委員長代理下林副委員長から平成29年度渡邊萬次郎賞第34回受賞候補者として加藤祐三名誉会員が報告され,受賞者として異議なく承認された。

(3) 日本鉱物科学会論文賞選考委員会受賞論文候補報告と審議  
(中村委員長・理事)

日本鉱物科学会論文賞選考委員会中村委員長から以下の2編が受賞論文候補として報告され,異議なく承認された。

平成29年度日本鉱物科学会第19回論文賞受賞論文  
受賞論文:  
UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka I: Geological and petrological background. および Title: UHT granulites of the Highland Complex, Sri Lanka II: Geochronological constraints and implications for Gondwana correlation. JMPS, 111-3,145-156 (2016) および111-3, 157-169 (2016).  
受賞者となる会員著者: 小山内康人会員, 中野伸彦会員, 北野一平会員, 足立達朗会員

(4) 日本鉱物科学会研究奨励賞受賞候補者報告と審議  
(三河内委員長・理事)

日本鉱物科学会研究奨励賞選考委員会三河内委員長から,平成29年度日本鉱物科学会研究奨励賞第23回受賞候補者として鹿山雅裕会員,第24回受賞候補者として新名良介会員が報告され,受賞者として異議なく承認された。

平成29年度日本鉱物科学会研究奨励賞第23回受賞者氏名:  
鹿山雅裕会員  
受賞研究:カソードルミネセンスによるケイ酸塩鉱物構造欠陥の定量評価と地球惑星科学への応用

平成29年度日本鉱物科学会研究奨励賞第24回受賞者氏名:  
新名良介会員  
受賞研究:高温高压実験を用いたマントル深部鉱物の物理・化学的性質の研究

(5) 日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会受賞候補者報告と審議  
(鈴木委員長・理事代理:門馬副委員長)

日本鉱物科学会応用鉱物科学賞選考委員会鈴木委員長代理門馬副委員長から平成29年度日本鉱物科学会 応用鉱物科学賞第11回受賞候補者として森本和也氏(非会員)が報告され,受賞者として異議なく承認された。

平成29年度日本鉱物科学会応用鉱物科学賞第11回受賞者氏名:  
森本和也 氏

受賞題目:機能性層状複水酸化物の合成とその機能性材料への応用

(6) 櫻井賞選考委員会受賞候補者報告と審議  
(松原委員長代理:宮脇理事)

櫻井賞選考委員会松原委員長代理宮脇委員から平成29年度櫻井賞(第44回)受賞候補者として高井康宏会員が報告され,受賞者として異議なく承認された。

平成29年度櫻井賞(第44回)受賞者氏名:高井康宏会員  
受賞対象鉱物:肥前石  
Y. Takai & S. Uehara: Hizenite-(Y), Ca<sub>2</sub>Y<sub>6</sub>(CO<sub>3</sub>)<sub>11</sub>·14H<sub>2</sub>O, a new mineral in alkali olivine basalt from Mitsukoshi, Karatsu, Saga Prefecture, Japan. JMPS, 108, 161-165 (2013).

(7) 2017年度JMPS学生論文賞受賞論文候補報告と審議  
(平島委員長・理事)

平島JMPS編集委員長から平成29年度JMPS学生論文賞受賞論文候補として以下の2編が報告され,異議なく承認した。

第5回受賞論文: Detrital zircon provenances for metamorphic rocks from southern Sør Rondane Mountains, East Antarctica: A new report of Archean to Mesoproterozoic zircons  
受賞者: Ippei KITANO (北野一平会員)

第6回受賞論文: Cation ordering of {110} and {211} sectors in grandite garnet from Mali  
受賞者: Yurie NAKAMURA (中村友梨江会員)

第4号議案 平成30年度収支予算案の審議  
(土山会長, 説明栗林会計幹事)

栗林会計幹事から,7月31日の決算前の予算であるため未定のところが多くなっているが,現時点では例年通りの予算案であるので,今回規定通り審議,承認をいただき,その後7月の決算後に補正予算を立て9月3日の第3回定例理事会に提出し最終承認をいただくとの説明がなされ,審議の後,承認された。なお,予算は理事会承認事項であり,総会承認事項ではないが,総会では最終予算案を報告する。

第5号議案 役員内規変更にかかる今期投票開始日の変更の件  
(黒澤理事, 説明坂巻選挙管理委員)

黒澤理事から今期の役員投票開始日の変更について提案があり,坂巻選挙管理委員から以下の通り説明がなされ,変更案が承認された。

役員選出内規に沿って開始し,投票日の3ヶ月前の選挙アナウンスには間に合ったが,投票日から1ヶ月前に学会HPへ候補者氏名公示をすると現在の内規に従えば選挙期間が短くなる。今回のみ投票期間を延長するため役員選出内規の変更をお願いしたく,理事会で規約改正をお願いしたい。  
今回のみ時限的変更 「選挙は隔年6月から7月中にかけて」

第6号議案 規約など見直しの件  
(土山会長: 説明大和田細則等検幹事・理事)

大和田細則等検討委員会委員長から,(1)次期役員選挙に向けて役員選出内規改定と(2)慣例のWG設置などの規約化について,当委員会で検討することの是非について提案があり,以下の様な説明がなされた後,検討していくことが承認された。

(1)次期役員選挙に向けて役員選出内規改定:今回,会長,副会長候補者推薦委員会での選考期間が短期間であったことからスケジュールの見直しが必要と黒澤委員長から連絡があり,今後検討していただきたいとのことでした。併せて,被選挙権者には現

在名誉会員まで入っていますが、実際は現役の会員で候補者の推薦を検討しているので、「任期中に65歳を超える会員は被選挙権はない」ということ等も、明文化してはどうかなど検討することの是非。

(2) 慣例のWG設置などの規約化：現在の運営細則でも、ワーキンググループ設置について規定はなく、あるとすれば「第9条 会長は必要に応じ理事会の承認を経て、その他の委員会を置くことができる。」で拡大解釈してきたかもしれないが、任意団体での慣例でWGの設置が行われてきた経緯もあるので、明文化することはどうか、ということ。なお、「その他の委員会」にWGを含めるのか、「その他の委員会またはワーキンググループ」と記載するのか、または「ワーキンググループ設置」の規約を別途作成するのかなど。併せて他の委員会の様に人数、委員長、任期、解散など規定すべきかどうかの是非。

#### 第7号議案 学会運営に関するアンケート実施調査の件 (土山会長)

土山会長から(1) 学会員へのアンケート実施についての是非の件と実施される場合の(2) 本件実施調査方法などについて提案があり、以下のような説明の後、質疑応答の結果、学会員へのアンケート実施が承認された。それを受けて、吉朝会員増特務幹事と佐藤会員幹事にアンケート内容や実施方法を検討いただき、1年くらいで実施するよう依頼した。

(1) 学会員へのアンケート実施についての是非の件：本学会会費規定変更に関して会員区分等検討WGで議論を重ねてきましたが、本日の理事会において、会費規定の一部を改訂する案を総会に諮るか否かの審議していただきましたが、この件に関して、学会員の皆様に対してアンケートを実施しようという提案がありました。しかしそれだけをアンケートするのはもったいないという意見が多数出ました。そこで、会員区分だけでなく、今後の学会の方向性や、アクティビティ、会員サービス、雑誌なども含めて、一般的なアンケートをおこなってはと考えた次第で、学会員へのアンケート実施についての是非を審議をお願いします。なお、現在、「各委員長、WGの長」に、その事前調査をお願いします。

(2) 本件実施調査方法など

#### 第8号議案 2018年年会での普及講演会実施の件(土山会長)

土山会長から学会の一般広報活動とともに国石選定事業の一貫として、「ひすい」に関する普及公演会を、山形大学での年會に引き続き行いたいとの提案がなされ、以下のような山形大学LOCによる普及講演実施スケジュールが紹介され、異議なく承認された。

9月22日(土)：午後 or 午前に講演会実施

(当日仮予約済み会場使用料なし)

内容：国石「ひすい」を中心に、委託された講師による2時間程度の講演(講師は宮島以外は選定中)

実行有志メンバー：土山、黒澤、栗林、宮島、河上、以下LOC：大友、加々島、湯口

会場：ゆうキャンパス(山形駅前) 予算的には、LOCの予算を想定し、もし不足分がでた場合には学会から補填するという事で、LOCと栗林会計幹事にはお話ししております。

#### 第9号議案 年会開催地の件(黒澤行事幹事・理事)

黒澤行事幹事から2019年年会と2020年年会開催について以下のような提案がなされ承認された。(1) 2019年年会開催地(九州大学)については、小山内2019年年会LOC委員長から開催日程を2019年9月20日から22日で検討していることが説明され、引き続きLOCで検討することが承認された。また(2) 2020年年会開催地選定の件については、日本地球化学会と共催で東北大学(土屋会員中心)を会場として実施することを検討していることが報告さ

れ、引き続き具体的に検討することが承認された。

#### 第10号議案「岩石・鉱物の日」制定を行う件 (土山日本の石WG委員長・理事)

土山会長から、国石選定事業の一貫として、鉱物・岩石の日の選定を行いたいと提案がなされ、以下の提案理由が述べられ、審議の結果、今後WGで検討していくことで承認された。理由：Webで調べたところ石の日はあるが、鉱物や岩石の日というのは見当たらない。国石の定着だけでなく、鉱物や岩石をもっと知ってもらうためにも、鉱物・岩石の日の選定をおこないたい。具体的には、WGを作り、決め方も含めて議論する。

#### 第11号議案 GKK編集委員会メール審議結果について (長瀬委員長・理事)

長瀬GKK編集委員長から、先に報告した2018年4月26日に実施したGKK編集委員会メール審議結果について以下の提案と説明があり、質疑応答の後、1.「フィールド紹介」の記事の扱いについては、提案内容に加え、記載している内容の報告、但し産地の保全についての内容も加えること、2. 会員依頼原稿のページチャージ負担なしについては、(3)8頁までは免除することで承認された。また、JMPSと合わせて議論する必要があること、カラーページチャージはこれまで通りとする事の補足説明があった。

1. 「フィールド紹介」の記事の扱いについての委員会提案：1) 投稿規定の「3. 本文の体裁」の中に加え、論文形式とすること。2) ページ制限は「解説・資料」に準じページ制限は原則8頁以内とすること 3) 査読の有無とレフェリー数は「鉱物の分析及び実験・解析のコツと勘どころ」や「最近の研究から」に準ずる扱いとして、原則査読者による査読の審査はしないで、編集委員長による査読とすること
2. 会員依頼原稿のページチャージを負担なしにすることについての委員会提：概ね賛成という回答があったが、出版費用の増加の心配あり。予算の範囲内であれば賛成。会員依頼原稿ページチャージ負担案として (1) 全額免除、(2) 半額免除、(3) 8頁までは免除、(4) 会員以外のみ免除 (5) その他。

#### 第12号議案 第3回定例理事会、総会開催日の件 (中村庶務幹事・理事)

中村庶務幹事から、昨年2017年9月12日平成29年度第1回定例理事会において、2018年9月初日辺りで日程を検討することになってきた平成29年度第3回定例理事会開催日について、小山内監事による監査が2018年(平成30年)9月3日(月)午前中に日本鉱物科学会事務局で実施されるので、引き続き午後一時から日本鉱物科学会事務局を主な会場とし、ZOOMを使用しての第3回定例理事会を開催したいとの提案があり、審議の結果承認された。なお、2018年9月3日は、第3回定例理事会で承認される会計決算報告書等と合わせて総会招集通知案内を送付する日が、2018年9月20日開催の定時総会の14日前と法令で決まっていることから、送付物準備日も含め最終日となります。最後に、総会議事録には出席した役員の名を書けることが法令で定められていますので、9月20日の総会にはできるだけ理事は出席するようお願いがあった。

#### その他の議案

##### (1) 電子ジャーナルpdf本文ファイルでのカラー印刷導入の件 (平島委員長・理事)

平島JMPS編集委員長から提案があり、冊子カラーが少なくなることでカラー印刷代収入減などのデメリットも挙げられ、GKKと合わせて各編集委員長、会計幹事で具体的に検討するとして継続審議となった。

##### (2) 公益財団法人益富地学会館主催『石ふしぎ大発見展』の おける『国石』の特別展示会への協力について(土山会長)

土山会長から提案があり、以下の説明に「特別展示の共催」とすることで承認された。

益富地学会館より、10/6～8に京都で開催される「石ふしぎ大発見展」での、『国石』の特別展示会のご提案と、鉱物学会の協力の依頼がありました。具体的には、「この展示会の特別展示として、『国石』の紹介を目的としたテーマの企画を日本鉱物学会と連携(共催、後援、協力等)して開催させて頂けないか」ということです。なお、学会としての金銭的負担はなく、logistic関係は展覧会側でもち、さらに学会で企画している「国石」の出版が間に合えば、販売にも協力していただけるとのことでした。

私としては、「国石」の浸透をはかる上で、大変ありがたい企画だと思っており、是非とも連携したいと考えています(「特別展示の共催」がベストかと考えています)。

#### 【10】閉会

以上の議事を終え、19時20分に閉会した。

上記の決議を明確にするため、出席した会長、副会長及び監事がこれに記名押印する。

2020年(令和2年)12月11日

会長 土山 明 印

副会長 榎並正樹 印

監事 小山内康人 印  
(配布時押印省略)